

地域医療支援センターだより

ごあいさつ

ふじおか まさひこ
院長 藤岡 正彦



当院の基本理念に、最新最高の医療を安全に提供し、能登地域全体の皆さんの健康を守るとありますように、私たちは能登の他の病院や開業の先生方との連携を深めて能登地域の皆さんにどこでも安心して医療を受けていただけるような仕組みを目指して努力しています。

そのためには設備や医療技術の向上は勿論ですが、人材の育成が大変重要です。当院は明日の医療を担う若手医師(研修医)の育成や看護師の育成のための研修制度などを積極的に取り入れ人材育成に力を注いでいます。またBSC(※)や様々な研修会、発表会、病院フェスタなどをとおして院内の活性化や地域の皆さんとの交流を図っています。当院が鷲の眼のように能登地域、ひいては日本、世界を俯瞰しながら当院の果たすべき役割を考え、全うしていければと願っています。

※BSC(バランス・スコア・カード)

BSC取組み 「地域医療支援病院」承認取得対策プロジェクトチーム

BSCは目標や施策を「見える化」し、全職員に周知し、全職員で総力を挙げて目標を達成する経営マネジメントシステムです。「学習・成長」「業務プロセス」「顧客」「財務」「医療の質」のそれぞれの視点で行動計画を設定します。当院は地域医療支援病院の承認を取得することを目標にかかげ、現在までの取組みや、今後のビジョンについての発表を行いました。

承認の要件

紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線の地域医療を担う

かかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有していること

※地域の第一次医療機関を支援する病院

地域医療支援病院の役割

- 紹介患者に対する医療の提供
- 医療機器 共同利用
- 救急医療の提供
- 地域医療従事者への研修実施能力

地域医療支援病院 公立能登総合病院

ビジョン

機能分化と連携

社保審 医療保険部会 2025年の姿

医師負担の軽減

24年診療報酬改定最重点課題

胃瘻プロジェクト

厚生労働省研究費補助金
長寿科学総合研究事業

「在宅療養中の胃瘻患者に対する摂食・嚥下リハビリテーションに関する総合研究事業」

この取り組みは胃瘻を造設される方を対象にした研究事業です。経口摂取が困難な患者さんに対する胃瘻造設基準はありますが、胃瘻患者さんに対する経口摂取開始基準や抜去基準は今のところ存在していません。胃瘻は有用な栄養摂取方法ではありますが、胃瘻造設後の患者さんに対し経口摂取を再開できる可能性のある患者さんも、実は多いと言われております。つまり一時的な栄養摂取方法として開発された胃瘻が半永久的に使われてしまっていることが多いのです。胃瘻の継続使用は一元的に望ましくないことと決めつけることはできませんが、少なくとも現状を把握することが必要ではないかということから当研究事業に参加することにいたしました。つきましては当研究について研究の資料となるアンケートや現状についていつも連携いただいております医療機関様や介護施設様のご参加・ご協力をお願いいたします。

新人訪問看護日記



“夏”暑さ対策

暑い夏がやってきました！皆さん、熱中症や脱水を予防するための暑さ対策は十分ですか？私たち訪問看護師は在宅療養の高齢者の暑さに対する感覚に戸惑うことが多々あります。例えば、日頃ベッド上で過ごすことが多いAさん（90歳）。いつも布団や毛布をすっぽりとかぶり、夏でも部屋の窓を閉めきり、部屋はまるで蒸し風呂のようです。「暑くないの？」と聞いても「暑くない！」と答えられます。しかし、体は汗だくで、衣服はしっとり濡れています。これでは熱中症や脱水症になる危険性大です。ご家族の方は風通しを良くするため窓を開けたり、本人に水分を摂るように勧めるのですが、開けた窓も自分で閉め、水分も自ら摂ろうとはしてくれません。私は訪問の度に環境調整や水分摂取の大切さを説明いたしましたが、これと同時に、ご家族には視覚で暑さを確認できるよう温度・湿度計の設置をお願いすることにいたしました。この甲斐あって家族の注意意識も変わり、本人も体調を崩すことなく療養されておられます。私たち訪問看護師は本人の体調管理はもちろんですが家の環境管理なども重要な支援の一つであると実感する今日この頃です。この夏も皆様が無事に乗り切れるよう、一生懸命支援させていただきます。

地域医療支援センターのモットーは”つなぐ・つながる・つなげる“です
院内外の皆様と手と手を取りあって繋がっていきたいと思います。
皆様 仲良く仲良く！ よろしくお祈りいたします！

